

お気に入りの一冊をあなたへ

読書推せん文コンクール 第5回

本の面白さを誰かに伝える楽しさを体験しよう！

久米絵美里先生 作文教室 【2025年5月～6月】



■久米絵美里先生 -プロフィール-
児童文学作家

1987年、東京都生まれ。慶応義塾大学法学部政治学科卒業。『言葉屋』で第5回朝日学生新聞社児童文学賞を受賞。『嘘吹きネットワーク』(PHP研究所)で、第38回うつのみやこども賞を受賞。

東京都・豊島区立西池袋中学校

チャレンジクラス1～3年生 【参加生徒数】7名 【実施日】6月12日(木)

「私は、よく心をマリアナ海溝に落つことす。エベレストに登りたいけれど脚力がなく、ほふく前進で高尾山を目指すような生き方でしたが、作文が好きだからやってもらいました(久米絵美里先生、以下同)」
児童文学作家の久米絵美里先生は、そんな不思議な言い方で、作文がどれだけ人生の支えになるのかを、語りはじめました。

作文を書いて
心のもやもやを晴らそう



様々なタイプに合わせ、書くコツを伝えました



「この漫画もいいよね」と談笑

と書く、そういう人はたくさんいるので、相手のことが想像しにくくなる人もあるかもしれない。家族や先生など身近な誰かへ向けて書くのもいいし、歴史上の有名な人、小説の主人公など、具体的なひとりの人にすすめるのもおすすめです」

「今日書くのは読書推せん文です。お気に入りの本を特別な誰かに向けて手紙のように300字くらいで書く。『短くてラッキー!』と思ったかもしれませんが、短い文章で的確に伝えたいことを書くことは大切な技術です」
まず「誰に推せんするか」ということ。そこを具体的にしぼることが大切だと先生はいいます。

そして、授業の後半は、久米先生が言う「才能爆発タイム」。つまりは自分の推せん文を書く時間ですが、あっと言う間に終わりました。以下生徒のみなさんの感想です。



前半の授業内容をふまえ、読書推せん文に挑戦!

「元気になる人へ」と書く、そういう人はたくさんいるので、相手のことが想像しにくくなる人もあるかもしれない。家族や先生など身近な誰かへ向けて書くのもいいし、歴史上の有名な人、小説の主人公など、具体的なひとりの人にすすめるのもおすすめです」



文章の改行やくりかえしで、原稿用紙をどのように使うかというところ

「最初に『ねえねえ』と呼びかけたり、質問ではじめたりする。これが『起』になります。次に、本の内容をほんの少しだけ、チラ見せします。これが『承』です。そして、『転』として相手におすすめしたい理由を書きます。最後に未来へのお願

今日は人生で一番
誇れる文章が書けました



最後におすすめの本と共に。記念の1枚となりました。

「勉強も国語も苦手ですが、先生が教えてくれたことが僕の文章にしみつきました。今日は人生のなかで一番誇れる文章が作れたと思います」
生徒のみなさんの才能は見事に花ひらいて、久米先生までしっかり届いたようです。



生徒に優しく語りかけながら、「誰にすすめたか」を一緒に考える久米先生

お気に入りの本の推せん文募集中! 【応募締切】2025年9月12日 消印有効

